

# 脊振山 ▶ 嘉瀬川 ▶ 有明海

## 脊振山

### 森林の役割

#### 山崩れ・洪水・渇水を防ぐ

山間部の森林は、平野部とも深い関りを持っています。木の根が張り、落ち葉や草などで覆われた地面のおかげで、土が雨水と一緒に海や川に流れだすのを防いでくれています。また土にしみ込んだ雨が地下水となって少しずつ川に流れることで洪水や水不足を防いでいるのです。

#### 県立21世紀県民の森木の実の工作



## 嘉瀬川ダム

### 佐賀県最大のダム

県下最大の多目的ダムで、洪水から暮らしを守るほか安定的な水源としての役割を持っています。ダムに貯えられた水は、下流の川や佐賀市街地の水路を潤すとともに佐賀平野西部のかんがい用水の補給に利用されるなど、これまで水不足で困っていた地域の救世主として大きな働きを見せています。

### 海の源は森

#### 漁業者が森で植林活動？

「森・川・海」はひとつという思いから、漁業者による山間部の植樹活動も行われています。森、川、海、それぞれの機能と役割を理解して環境保全の取り組みが県内全域でなされています。



## 嘉瀬川

### 未来へつなぐ

#### NPO法人 嘉瀬川交流軸

嘉瀬川と嘉瀬川流域に関する情報を発信したり人的交流を促進しています。嘉瀬川防災施設「さが水ものがたり館」を中心に、防災・減災、河川愛護意識の啓発、歴史的建造物「石井樋」や成富兵庫茂安の治水・利水の歴史を伝える活動を実施。伐採竹を活用して有明海に牡蠣礁を復活させるチャレンジは、実現の兆しを見せています。



#### さが水ものがたり館 子どもの石井樋フェア



### 干拓

#### 干拓で広げた農地

平安時代から佐賀では干拓を行い農地を拓けてきました。干拓とは、有明海の干潟に堤防をつくり、外の水が入ってこないようにして陸地にすることです。干拓地であることを表す「棚」(からみ)という地名は、有明海に接する町で多く残っています。



### 有明海の干潟

#### ラムサール条約湿地

有明海は、ムツゴロウやワラスボなど豊富な魚介類に恵まれているだけでなく、クロツラヘラサギやズグロカモメなど、渡り鳥の飛来地としても知られています。平成27年5月、佐賀市東よか干潟と鹿島市肥前鹿島干潟がラムサール条約湿地に登録されました。

### 宝の海

#### 有明海は森からの栄養がいっぱい!

有明海には、嘉瀬川や筑後川など、大小100以上の河川から森の栄養分が運ばれてきます。上質な海苔が生産され、日本一の海苔販売数、販売額を誇るのは、森や川から流れてきた豊富な栄養分があつてこそです。

### クリーク

#### 人の生活と生態系を守る

クリークには農業用水をためる役割に加え、大雨の時には水をためて洪水を防いだり、火災時には防火用水として活用されるなど、地区を守る重要な役割があるほか、水草や水辺の生態系を守っています。広大な干拓地ではクリークを利用して農産物がつくられています。

#### 有明水産振興センター 水産展示館



## 有明海

